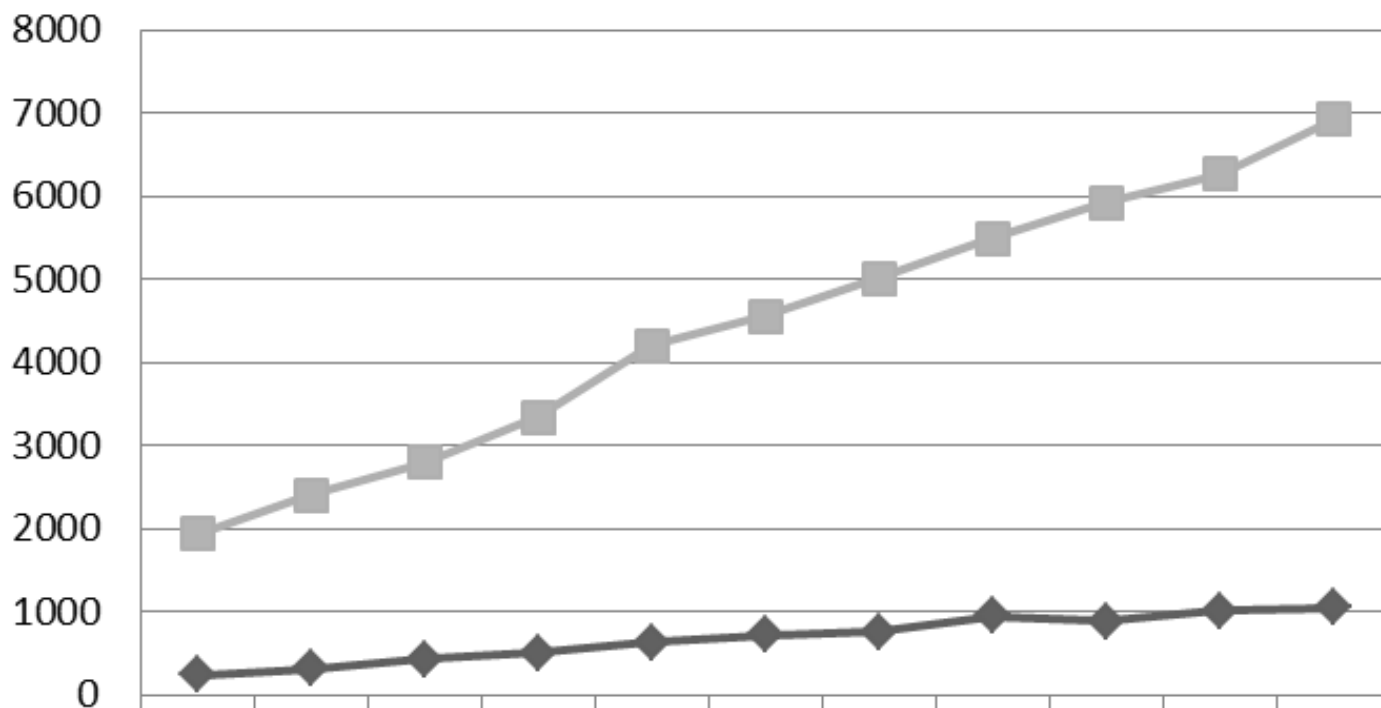


# 連れ去り・引き離しによる 子どもの心理と成長への影響

大正大学 青木 聡

[a\\_aoki@mail.tais.ac.jp](mailto:a_aoki@mail.tais.ac.jp)

# 面会交流紛争の新受件数 最近10年間で約3.7倍！



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
◆ 審判	247	322	434	509	638	725	760	952	883	1020	1048
■ 調停	1936	2406	2797	3345	4203	4556	5014	5488	5917	6266	6924

# 子猿の代理母実験



子猿を母猿と引き離して檻へ

檻の中には

- ・ミルクを与える針金製の代理母
  - ・ミルクを与えない布製の代理母
- ほとんどの時間、布製の代理母にしがみついて過ごす

Food or Security ? → Security !

# 代理母実験の後日談

母猿と引き離された子猿は.....

- 実験後に母猿のもとに戻すと恐慌反応
- 布製の代理母に過剰な“しがみつき”
- 集団不適応(単独行動、群れの掟破りなど)
- 異常行動(攻撃反応、恐慌反応、自傷など)

母子の“関係性”に子猿を健全に成長させる秘密？

- スキンシップや情緒的安心感の研究
- アタッチメント理論

# ストレンジ・シチュエーション法

- 1) 乳幼児と母親が部屋に入る
- 2) 見知らぬ人物が部屋に入ってくる(ストレンジ状況)
- 3) 母親だけが部屋を出る(分離／引き離し)
- 4) 一定時間後に、母親が部屋に戻る(再会)

→乳幼児の反応は4パターン！

Ainsworth, M. D. et al. (1978): *Patterns of Attachment*. Lawrence Erlbaum Associates.

Main, M. & Solomon, J. (1986): Discovery of an insecure disoriented attachment pattern: procedures, findings and implications for the classification of behavior. In Brazelton, T. & Youngman, M. *Affective Development in Infancy*. Ablex Pub.

# ストレンジ・シチュエーション法（続き） “乳幼児の反応の4パターン”

- 安定型：分離に泣き、再会を喜ぶ（自ら抱きつく）。
- 回避型：分離と再会に無反応。
- 抵抗／両価型：分離に激しく抵抗し、再会には激しく拒絶。しかし、抱かれるとしがみついて離れない（激しく拒絶を続ける）。
- 混乱型：無反応だったり、過剰に抵抗／拒絶したりで、一貫性がない。

# アタッチメント

⇒“関係性”の中で情緒的安心感を得ている状態

安定型：アタッチメント行動を適切に使う

回避型：アタッチメント行動を使わない

抵抗／両価型：アタッチメント行動を過剰に使う

混乱型：アタッチメント行動の使い方が分からない

→子どもの信号に対する母親(養育者)の感受性  
＝鏡のような情動調律 が重要

→両親(複数の養育者)の存在 が重要

# 引き離しによる直接の影響

- ・片方の親、祖父母(親戚)、友人、馴染んだ学校生活や“地元”などを失う。
  - = 喪失体験 → 悲嘆反応
- ・別居親に対する否定的な印象が作り上げられる。
  - = 内面化 → 自己否定

NYSPCC (2008): *Supervised Visitation Services for High-Risk Families*. NYSPCC



# 片親疎外による心理的影響

- ・自己肯定感の低下
- ・抑うつ傾向
- ・アルコール依存傾向
- ・アタッチメント行動の混乱型

Baker, A. J. L. & Ben-Ami, N. (2011): To Turn Child Against a Parent Is To Turn a Child Against Himself: The Direct and Indirect Effects of Exposure to Parental Alienation Strategies on Self-Esteem and Well-Being. *Journal of Divorce & Remarriage*, 52, 472-489.

# 面会交流は子どもを“混乱”させるか？

引き離し後の監護状況で安定している場合

(ピンポン玉のように)二つの家を行き来する生活によって、子どもは“混乱”するのではないか？



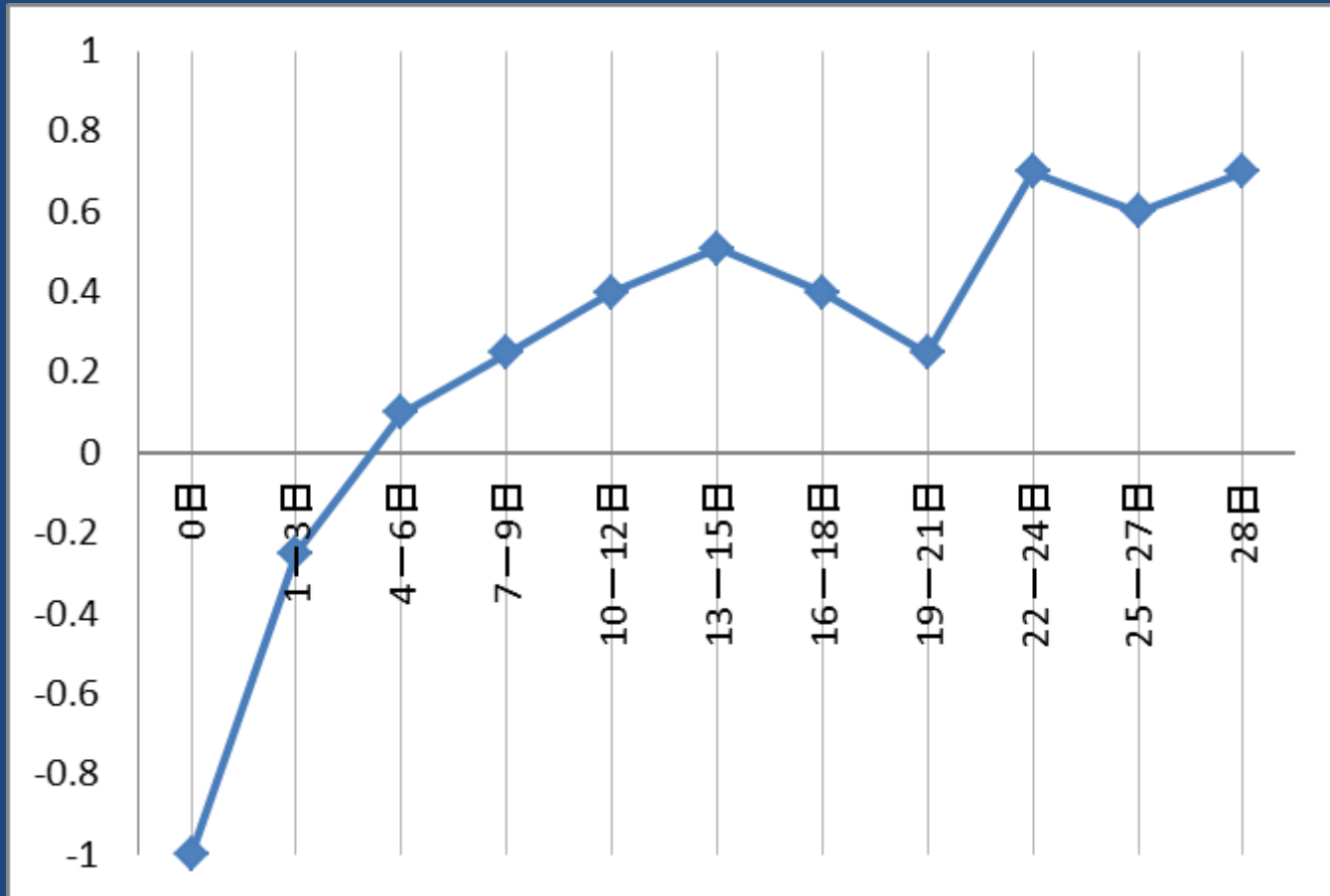
面会交流を実施しているほうが、情緒面、行動面、学業面のすべてにおいて、評価点が高い。

Bauserman, R. (2002): Child adjustment in joint-custody versus sole-custody arrangement: A meta-analytic review. *Journal of Family Psychology*, 16, 91-102.

Carlson, M. J. (2006): Family structure, father involvement, and adolescent behavioral outcomes. *Journal of Marriage and Family*, 68, 137-154.

Booth, A. et al., (2010): Father residence and adolescent problem behavior: Are youth always better off in two-parent families? *Journal of Family Issues*, 3, 585-605.

# 子育て時間と情緒的安心感の関連性



Fabricius, W. V. et al. (2012): Parenting Time, Parent Conflict, Parent-Child Relationships, and Children's Physical Health. In Kuehnle, K. and Drozd, L. (eds): *Parenting Plan Evaluations*. Oxford University Press. p188-213.

# 親教育の必要性

\* 離婚時に親教育を行うべき

- ・面会交流の重要性
- ・子どもを第一に考える視点
- ・親子(父母)コミュニケーションの学習

# 養育プラン作成の必要性

- \* 離婚時に面会交流スケジュールを取り決めるべき
  - ・子どもの健全な成長のためには、別居後も最低月4～6日（隔週2泊3日）の面会交流でアタッチメントを育むこと